

生活習慣病センターだより

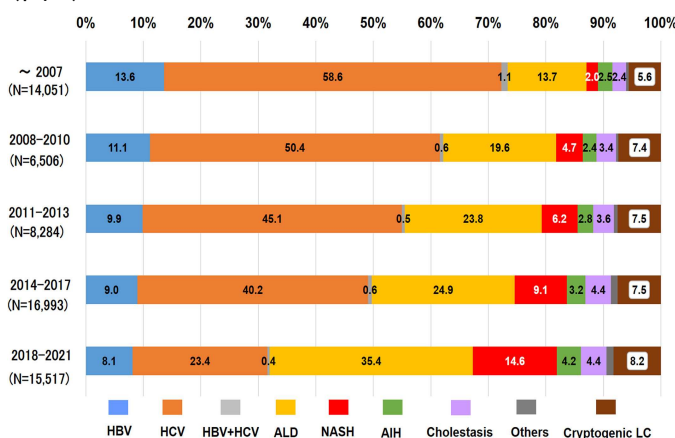
☆「ご存じですか、MASLD？」☆

2025年12月発行

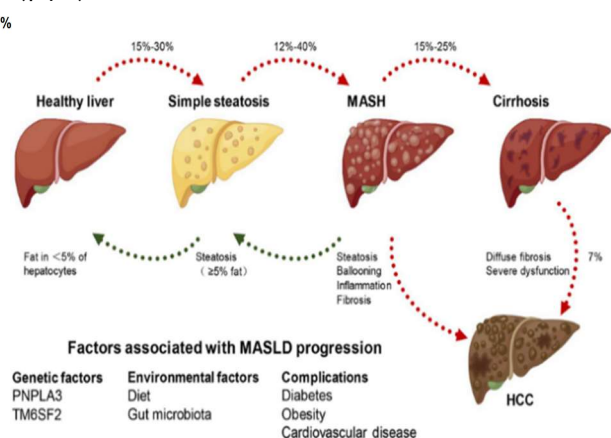
●ご存じですか、MASLD？

脂肪肝とは肝細胞に中性脂肪がたまった状態のことで、近年ウイルス性肝炎治療が進む中、肝硬変の原因疾患として増加傾向をたどっています。外国同様、日本でも食生活の変化による生活習慣病患者増加に伴い増加傾向が見られ(図1)¹⁾、現在有病率は9~30%、患者数は少なくとも1000万人以上と推定されています。このように脂肪肝がいわゆる生活習慣病と関連していることが明らかとなっており、2023年MASLD(代謝機能障害関連脂肪性肝疾患)という概念が提唱されました。非アルコール性の脂肪肝に加えて、心代謝系危険因子(肥満、糖尿病、高血圧、高中性脂肪、低HDL血症)の1項目以上があれば、MASLDの診断となります。MASLDの一部はMASH(代謝機能障害関連脂肪肝炎)を発症、肝臓の線維化を来し、肝硬変、さらには肝臓へ進展することが知られています(図2)²⁾。

(図1)



(図2)



(図3)



●早期発見が大切

2023年6月、日本肝臓学会より「奈良宣言2023」が発表されました(図3)³⁾。慢性肝臓病を早期発見、克服するため、健康診断等で広く測定されるALTが30U/Lを超えていたら、放置することなくまずはかかりつけ医を受診しましょうという声明です。状況に応じて専門医の下での詳細

な検査、治療が必要な場合があります。肝臓病に至る原因は色々ありますが、脂肪肝も大きな原因の一つとなっています。採血検査を受けられた際は、一度注意して確認してみましょう。

出典

1) Enomoto H, et al. Hepatol Res 54; 763-722: 2024

2) Rao G, et al. Front Med (Lausanne) 10; 1294267: 2023

3) 日本肝臓学会. 奈良宣言特設サイト. https://www.jsh.or.jp/medical/nara_sengen/